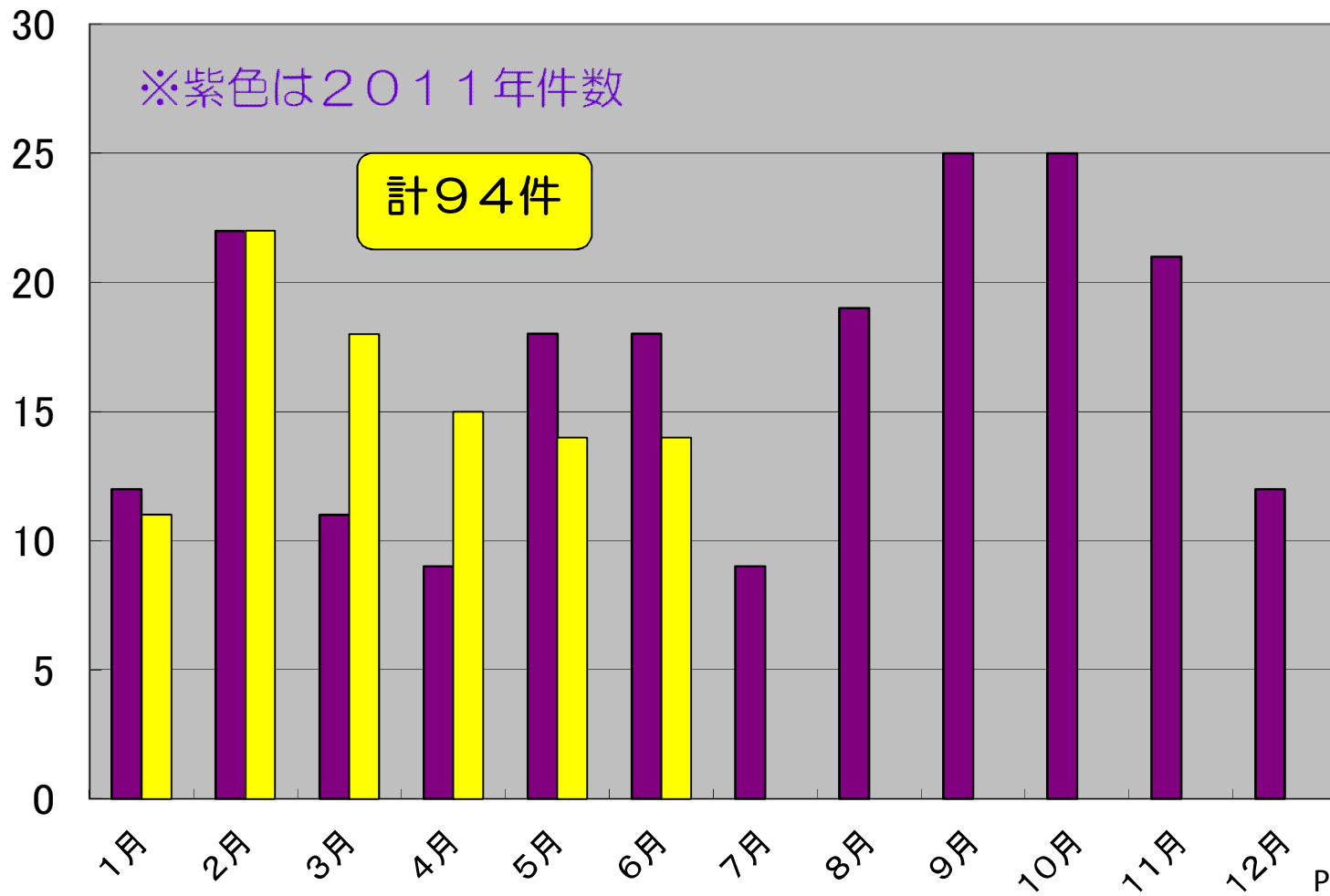


平成24年7月
在ホーチミン日本国総領事館

平成24年上半期における 邦人犯罪被害・トラブル等の特徴

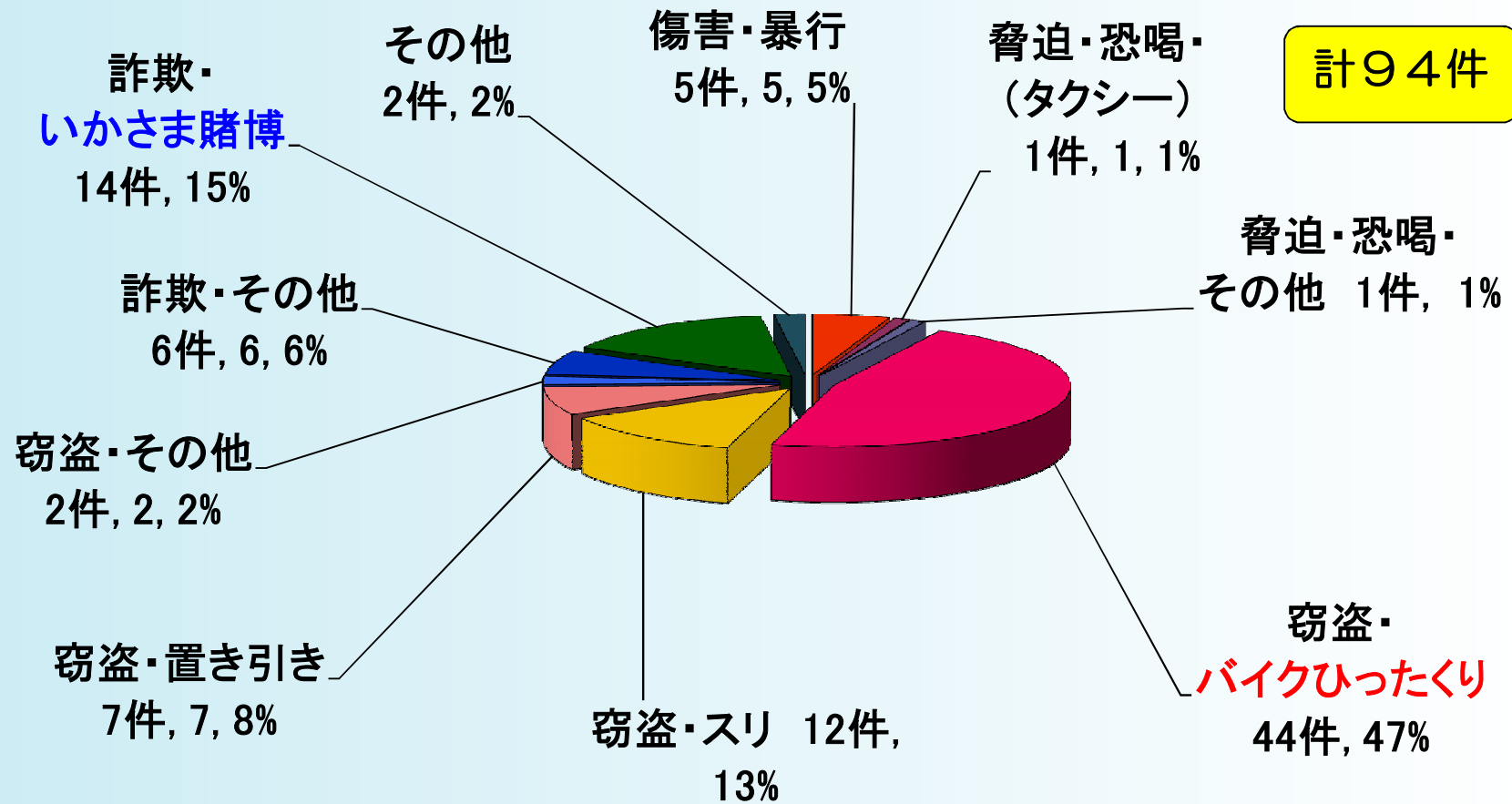
犯罪被害にかかる邦人援護件数【月別】

(平成24年1月1日～6月30日)



犯罪被害にかかる邦人援護件数【形態別】

(平成24年1月1日～6月30日)



計94件

【ひったくり被害】 H24年上半期の特徴

- 旅行者・出張者等の短期滞在者の被害割合が増加（約8割）
- スマートフォン、タブレット端末、ノートパソコン、デジタルカメラ所持者が狙われる
- 夕方から夜間にかけての被害がほとんど
- 邦人旅行者が利用するホテル、在留邦人が居住するアパート出入口付近において、出入りを待ち伏せする手口が目立つ
- バッグ等をたすき掛けにして所持していた被害者が負傷するケースが散見

【ひったくり被害】特徴的事例

【事例1】（男性旅行者）

市内中心部で道に迷い、タブレット端末で道を調べながら歩いていたところ、背後から来たバイクにひったくられた。

【事例2】（女性旅行者）

夜間、空港到着後、市内中心部に向かって歩いていたところ、背後から来たバイクに道路側に掛けていたバッグをひったくられ、現金、カード等の貴重品を全て失ってしまった。

【ひったくり被害】特徴的事例

【事例3】（女性旅行者）

夕食のため、宿泊先ホテルを出て、少し歩いたところ、突然、二人乗りのバイクが脇道から現れ、たすき掛けにしていたバッグをひったくられ、首や手に怪我を負った。

【事例4】（男性出張者）

早朝、公園で散歩した後、ホテルに向かって歩いていたところ、背後から来たバイクに持っていたバッグをひったくられた。

【ひったくり被害】特徴的事例

【事例5】（男性在留邦人）

通勤で利用しているバイクタクシー乗車時、ヘルメットを被るため、胸の前に置いていたバッグから手を離れた隙に、背後から来たバイクにノートパソコン等が入ったバッグをひったくられた。

【事例6】（男性在留邦人）

勤務先から徒歩で帰宅中、アパート付近まで来たところで、背後から来たバイクにノートパソコン等が入ったバッグをひったくられそうになった。

【ひったくり被害】 対策

～犯行グループから狙われないために～

- ★徒歩で移動する場合は極力手ぶらで外出する
- ★携行品がある場合、タクシー等自動車で移動する
- ★バッグ類を所持して徒歩で移動する場合は、道路側に持たず、建物側を歩くこと
 - ※たすき掛けは、怪我をするケースが多く勧められない
- ★高額物品・現金は人前で出さず、見られないように
- ★特に、ホテル、アパート等の出入りの際は、自分を注視・尾行する者がいないか周囲を警戒する
- ★女性は夜間単独での外出を控え、目立つ高価な装飾品を身につけないよう心がける（特にネックレス）

【ひったくり被害】 対策

～被害を最小限に抑えるために～

- ★現金、カード類、旅券等の貴重品を一つのバッグ等にまとめて所持しない
- ★万が一被害に遭った場合、決して追いかけたり、抵抗したりしないこと

【スリ・置き引き被害】 H24年上半期の特徴

- 殆どが男性の財布をねらった犯行（約8割）
- テト（旧正月）期間前後に被害が集中
- 「話しかけ」、「身体への接触」等で注意をそらした後、窃取する手口が目立つ
- 高額現金所持者と露見した場合、尾行される等、あらゆる手口で狙われる可能性がある
- 置き引きは、空港、ホテルロビー内で発生

【スリ・置き引き被害】特徴的事例

【事例1】（男性旅行者）

路上で見知らぬ男性から英語で話しかけられ、自分が持っていたバッグの前に地図を広げられた。その際にバッグの中の旅券やデジタルカメラをすられてしまった。

【事例2】（男性在留邦人）

路上で、物売りの女の子3人組に花を押しつけられ、断ろうと両手で払いのけたが、いつの間にかバッグの中の財布がなくなっていた。

【スリ・置き引き被害】特徴的事例

【事例3】（男性旅行者）

市内中心部の両替屋で多額の現金を両替してしばらく歩いていたところ、前を歩いていた女性が突然立ち止まり、バイクが背後から軽くぶつかって去って行った。その後、ズボンの前ポケットに入れていた財布がなくなっているのに気づいた。

【事例4】（男性出張者）

ホテルチェックアウト後、同僚とホテルロビーで談笑中、スーツケースの上に置いていたバッグがいつの間になくなっていった。

【スリ・置き引き被害】 対策

- ★見知らぬ者が話しかけて（接触して）きた場合、警戒心を持つとともに他の仲間の動きにも注視する（殆どの場合、相手にしない方が無難）
- ★人が多く集まる観光名所等では特に警戒心をもつ
- ★物売りの子供達が近寄ってきたら相手にせず、すぐにその場を離れる
- ★現金の引出し、両替、会計の後等は、誰かが自分を注視していないか確認する等、警戒心を持つ
- ★空港やホテルロビー内においても、貴重品の入ったカバン等は肌身から離さない。または、少なくとも自分の視界内に入れておく

【いかさま賭博被害】 特徴的事例

【事例】（女性旅行者）

市内中心部で道に迷っていたところ、自称ベトナム人親子の女性2名に英語で話しかけられ、観光名所等を案内してもらった。その後、「今度妹が日本に行くので家で話を聞いてあげてほしい」等と自宅に誘われ、自宅と称する場所にタクシーで連れて行かれた。

そこで自称カジノのディーラーの叔父が現れ、「いかさま賭博で、金持ちの客人を騙して儲けよう」等と持ちかけられ、半ば強制的に参加させられた。

掛け金が上がっていき、現金を用意するよう言われ、カードを取りにホテルに戻り、貴金属店やATMに連れて行かれたが、引き出すことができず、「明日現金が準備できたら連絡するように」と電話番号を渡され、その日は別れた。不審に思い、翌日総領事館に相談した。

【いかさま賭博被害】 対策

- ★どんな理由であれ、見知らぬ者から話しかけられた場合、警戒心を持ち、安易に信用しない（殆どの場合、相手にしない方が無難）
- ★どんなに親切そうに見えても見知らぬ者に安易について行かない。
- ★賭博の話をもちかけられたら、きっぱりと断り、その場から立ち去る。
- ★必要最小限の現金のみを持ち歩き、クレジットカード等貴重品は安全な場所に保管しておく。

【タクシーにかかるトラブル】特徴的事例

【事例1】（男性在留邦人）

ベントイン市場前で客引きしているタクシーに乗ったところ、降車時に法外な料金を請求され、支払うまでタクシー内に閉じ込められた。

【事例2】（女性旅行者）

バイクタクシーから「市内観光に連れて行ってあげる」等と声をかけられ、頼んだところ、いつの間にか、市内中心部から離れた人気のない土地に連れて行かれ、突然降りるよう言われ、座席シートの下にしまっていた貴重品の入ったバッグごと逃走された。

【タクシーにかかるトラブル】 対策

★空港から利用する場合は、市内までのタクシーチケットを購入して利用する。

★レセプションから呼んだタクシーまたは、ホテル玄関に待機しているタクシーを利用する

★ 流しのタクシーを拾う際は、大手会社を選び、「ぼったくりタクシー防止カード」を活用する。

★ ベンティン市場等の観光名所付近で客引きしているタクシーへの乗車は避ける

※大手会社のタクシーを模倣した偽タクシーの可能性大

★ バイクタクシーやシクロは極力利用しない

【レンタルバイクにかかるトラブル】

【事例1】（男性旅行者）

レンタルバイクを借り、宿泊先ホテル前に止めていたところ、バイクを盗まれてしまい、高額な賠償金を要求された。

【事例2】（男性旅行者）

レンタルバイクを使用していたが、自分が予定していた返却日時よりも早く返却するよう要求され、延滞料金を請求される等、貸し主側とトラブルになった。

【レンタルバイクにかかるトラブル】 対策

★ ベトナムでは50CC以上のバイクを運転する際、ベトナムの運転免許が必要

★レンタルバイクの殆どは50CC以上のバイクであり、旅行者等の短期滞在者はレンタルしない方が無難

※日本免許からの切り替えは就労等3ヶ月以上の長期滞在者のみ可能

※無免許運転で人身事故を起こした場合、重罪に問われ、身柄を拘束される可能性も

★レンタルに際しては、レンタル契約内容（レンタル期間、故障・盗難時の賠償）を当事者間で具体的に確認した上で、契約書を作成しておく

【まとめ】

○ ホーチミンでは、窃盗、特にバイクによるひったくり被害の発生が多く、遭遇した場合、負傷する可能性が高いため、注意を要する

○日本人は犯行グループから格好の犯行対象として選定されており、外出の際には常に狙われているとの危機意識を持つ必要がある

○ひったくりを中心とした各種犯罪被害等から身を守るためには、特に

★手ぶらでの外出若しくはタクシー等車での移動

★見知らぬ者からの話しかけには応じない

の2点を励行する必要がある